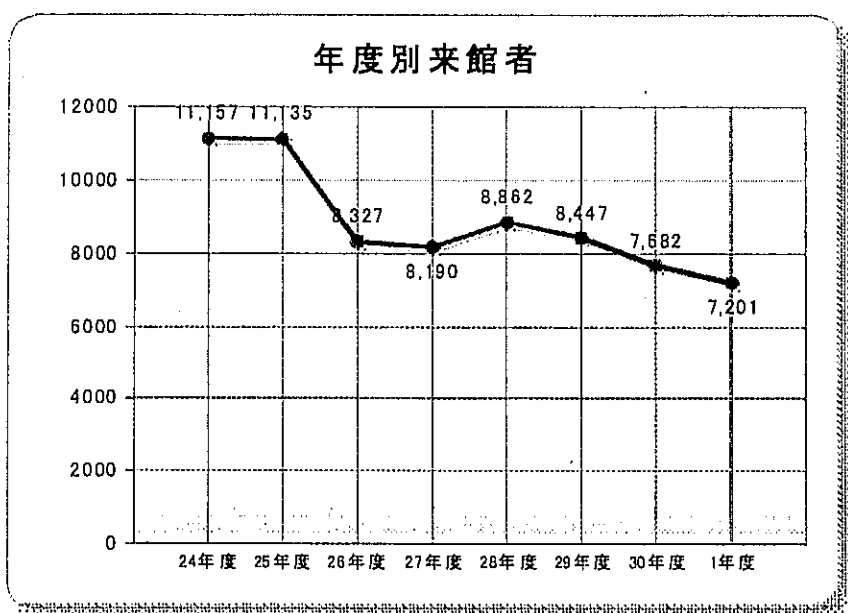


香月泰男美術館指定管理者事業計画書

団 体 名	公益財団法人長門市文化振興財団			
代表者氏名	大谷 恒雄	成 立 年 月 日	平成 11 年 9 月 1 日	
団体所在地	長門市仙崎 10818 番地 1			
電 話 番 号	0837-26-6001	F A X	0837-26-6002	
E・m a i l	info@renaissa-nagato.jp			
運営実績のある 類 似 施 設 名	所 在 地	主な業務内容	運営年月	
ルネッサながと	長門市仙崎 10818 番地 1	施設維持管理、運営	開始	H11 年 3 月
			終了	年 月
くじら資料館	長門市通 671 番地 17	施設維持管理、運営	開始	R3 年 4 月
			終了	年 月
村田清風記念館	長門市三隅下 2510 番地 1	施設維持管理、運営	開始	R3 年 4 月
			終了	年 月
			開始	年 月
			終了	年 月
			開始	年 月
			終了	年 月
事 業 計 画				
【経営方針及び団体の理念について】 1 指定管理者の指定を申請した理由 私どもは、地域住民一人一人が文化を享受し、文化を育み、文化を創り出すことができる環境づくりを行うことにより、豊かな伝統文化の継承・発展と新たな地域文化活動の振興を図り、真に豊かさを実感できる地域社会「豊かであるおいのあるふるさと長門」の形成と進展に寄与することを目的として、平成 11 年 9 月に設立された文化団体です。 平成 12 年のルネッサながと開館以来、施設の管理運営に従事し、この間、平成 23 年からは公益法人に移行し、公益の増進という社会的責任を担う立場を明確にして、事業運営を進めています。この経験と実績を活かし、長門市内の文化施設を一体的に管理し、地域の活性化と魅力ある文化のまちづくりに寄与するため、指定管理者に応募しました。 2 施設の現状に対する考え方及び将来展望 香月泰男美術館は、洋画家・香月泰男画伯が生涯こよなく愛した故郷の三隅に立地する長門市唯一の美術館であり、平成 5 年の開館以来、市民の美術に関する知識及び教養と文化の向上を進める拠点施設となっています。来場者は、開館 10 周年の平成 15 年をピーク				

に1万人台で推移していましたが、平成26年度以降、7千人から8千人台で横ばい状態が続いています。

香月画伯の初期から晩年までの油彩画や素描画、オモチャなど、香月家で大切に保管されていた作品が収蔵・展示され、戦後の日本美術史を代表する作品に触れることができるという、長門市が誇る施設であり、これまで以上に発信力を高め、より地域に開かれた美術館となることが求められていると考えます。



【施設の運営について】

1 サービスの向上・利用を促進するための方策

「美術を通じた地域の交流拠点施設」を目標とすべき姿として、以下の数値目標を設定するとともに、次の取り組みを行います。

①数値目標（期間：令和4年度から6年度まで）

目 標：来場者 9,000 人 ※3 ヶ年で 27,000 人

満足度：80%以上

②達成方策

当財団は、「市民の美術に関する知識及び教養の向上を図り、文化の発展に資する」という施設の設置目的を、各種事業を通じた文化的体験の提供により果たしていきたいと考えています。この内容の充実が利用者に対する最大のサービス向上策であり、来場促進に向けた最善の取組との認識のもと、次の取り組みを行います。

ア. 利用者視点に立ったサービス向上の取り組み

a) 接遇の向上

全職員を対象に毎年接遇研修を行い、来場者を「おもてなし」の心と「笑顔」でお迎えします。また、館内では定期的な見回りを行い、施設案内等のサービスを提供するなど、常に接客スキルを高めることに努め、顧客満足度の拡大とリピーターの確保につなげていきます。

b) 平等利用の確保

公立施設であるという認識を常に持ち、利用者の平等利用の確保に努めます。特に、幅広い年齢層や障害者、外国人にも展示内容を理解してもらえるよう、案内表示やパンフレットの工夫を行います。

イ. 利用促進に向けた取り組み

a) 新規顧客とリピーター率の向上

展示資料や施設周辺の恵まれた観光資源を活用した年間を通じての事業の提供、情報の発信を行い、新規顧客とリピーターの確保に努めます。特に、インターネットなどを用いた広報に力を入れ、施設やイベント等の認知度を高めることに取り組みます。また、教育機関との連携により、児童・生徒への美術の理解拡大と来場促進に努めます。

b) 積極的な情報発信

施設からの定期的な情報発信は欠かせないものと考えます。ホームページ、ソーシャルメディア等各種ツールを用いた発信や、当財団がこれまで培った情報網を活かし、他施設とも連携した積極的な情報発信に努めます。

c) 市内文化施設のネットワーク構築

市内文化施設の一体的な管理をめざすとともに、その利点を最大限に活かし、連携事業や施設間の周遊ツアー、相互優待サービスなどを企画していきます。また、施設間の人的交流を進めることで、施設運営の活性化につなげていきます。

2 利用者等の要望の把握及び対応方針

来場者にアンケート調査を行い、利用者のニーズの把握や満足度を調査し、定期的な自己評価を実施して業務の質とサービスの向上に努めます。利用者からいただいたご意見やご要望は、当財団からの回答を添えて館内等で公開し、長門市に報告した上で、業務の改善につなげます。

3 利用者のトラブルの未然防止と対処方法

事故や不審者・不審物による犯罪の早期発見と未然防止のため、スタッフ全員が防犯・防災への高い意識をもって日常的に施設内外の巡回を実施するとともに、小さな事故や気付きを共有し、その対応についての打ち合わせを行うなど、利用者の安全確保に努めます。

また、リスク対応マニュアルを整備して、周知と定期的な訓練に努めます。

4 その他（自主事業、地域との連携、他施設との連携等）

ア. 自主事業

地域に開かれた美術館となることを目指し、「企画・展示・情報発信事業」「教育普及事業」「調査研究及び収集事業」の3つの柱からなる自主事業を企画・実施します。

a) 企画・展示・情報発信事業

- ・香月画伯の魅力を発信するため、様々な角度から企画展示を行います。
- ・他の文化施設との連携事業を行います。
- ・様々なメディアを活用して、香月画伯の魅力をより広く全国に発信していきます。

b) 教育普及事業

- ・教育機関と連携した学校等への出前授業やワークショップの開催を通じて、児童生徒に香月画伯の世界や美術への関心を高めるよう努めます。
- ・他の美術館が企画する香月画伯を採り上げた展覧会に積極的に応じるなど、香月画伯の世界をより広く認知してもらえよう努めます。

c) 調査研究及び収集事業

- ・香月画伯に関する資料の収集に努めます。関係資料の収集に際しては、有識者や関係機関と連携しながら収集の決定、調査報告等を行います。
- ・収蔵資料については、後世に伝えるべき大事な市民の財産と認識し、可能な限り良好な状態で次世代に引き継げるよう、最大限配慮します。

イ. 地域との連携

地域の活性化に美術館が積極的に寄与していくためには、より多くの方々が施設に関わり、交流を進めていくことが必須と考えます。そのためにも、友の会のようなサポーター制度の創設や定期的な広報誌の発行等、様々な交流事業を積極的に進めていきます。

ウ. 他施設との連携

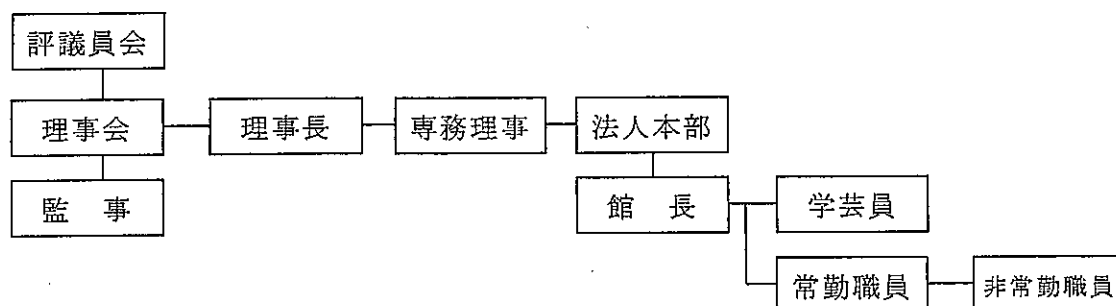
当財団は、20年余りにわたるルネッサながとの管理・運営を通じて、観光施設や各種団体との連携強化に努め、観劇ツアーや温泉宿泊プラン、温泉商店街割引チケット、企業プレイガイドなど様々な誘客の取り組みを進めてきた実績があります。この経験を活かし、市内の他施設や団体と連携した企画を進め、利用促進につなげていきます。

【施設の管理について】

1 職員の配置（指揮命令系統がわかる組織図を含む）

館長、学芸員以下8名編成を管理運営の基本体制とし、休館日を除き、月毎のローター

ション勤務により運営します。予定外の事象等が発生した場合は、法人事務局と協議し、当財団が管理する他施設からの補充や配置等により対応します。小規模組織の利点である意思決定の早さと意思疎通の緊密さを最大限に活かし、適正かつ円滑な管理運営に当たります。



○職員の勤務体制

当財団就業規程に基づき、土・日・祝日に相当する日数と休館日を休日とし、勤務時間を午前8時30分から午後5時15分までとします。勤務は、1日3人体制とし、勤務時間の割り振りを行います。

2 職員の研修計画

安定的なサービスを継続して来場者に提供するため、接遇研修や様々な業務に関係する各種研修会への積極的な参加や類似館への視察等、職員の資質向上に取り組みます。

3 安全・安心の面からの管理運営に向けた防犯・防災の対応

利用者の快適性と安全性の確保、施設設備の正常な稼働は、施設運営の根本となる部分であり、絶対条件と考えます。利用者にとって安全・安心で快適な施設環境を維持していくため、法令等に基づく各種点検を確実に実施するとともに、職員による日々の点検をすべての基本として、有事に備えます。

◎新型コロナウイルス感染症予防対策

新型コロナウイルス感染症の流行する中、施設利用者に安心して来場していただくためにも、徹底した予防対策は欠かせないと考えます。今後も継続して三密の回避、消毒、換気など、考え得る万全の対策を講じ、利用者に安全・安心な鑑賞環境を提供します。

4 災害発生時等の緊急時における対応

火災、地震、風水害等の緊急時には、館長を本部長とする危機管理本部を設置し、救護、連絡調整などの担当職員を配置します。また、緊急時に適切な初動対応が行えるよう、施設内に備えられたAEDの操作や防災の訓練を年2回以上実施します。

5 個人情報の保護

施設の管理運営上知り得る主な個人情報は、「施設利用者の情報」「アンケート回答者の情報」となります。これら情報は、サービスに関わる情報提供や案内書等の発送の目的で使用します。

この個人情報の保護は、施設の管理運営上重要な責務として、厳正な管理が求められます。当財団は、理事長を個人情報保護責任者とする独自の個人情報保護方針を制定して、個人情報の厳正な管理を行っています。今後も、関係法令を遵守して、情報の紛失・漏洩・改竄等が発生しないよう、適正な管理に努めます。

6 経理処理の方法

施設に会計責任者を置き、当財団財務規定に従い、収支計算、備品の管理及び物品の出納に関する帳簿を作成し、適正に経理を行います。

7 管理経費縮減のための工夫

ア. 文化事業

各種事業の開催や積極的な情報発信等によって利用者の増加を図り、入場料収入の確保に努めます。指定管理期間中の利用者目標は、団体旅行の減少など厳しい情勢下ではありますが、年間 9,000 人に設定し、3 ヶ年で 27,000 人の利用を目標とします。また、施設の特性を活かした利用者サービスの一環として、施設オリジナルグッズの販売に取り組み、安定した収入の確保に努めます。

イ. 維持管理・運営事業

こまめな冷暖房の管理や消灯の実施、事務室の昼休憩中の消灯、コピー用紙の裏面利用等に取り組み、経費節減、省エネルギー及び環境への配慮に努めます。

【その他 特記すべき事項】

- ・私ども財団は、平成 11 年 9 月に設立され、同 12 年のルネッサながと開館以来、その管理運営に従事してきました。その間、約 280 万人以上の利用者を受け入れ、5 万件以上の貸館業務の受け付けや 600 件を超える自主事業の企画・実施を行ってきました。この間培った人的ネットワークは全国に及びます。これらの経験と実績を本美術館の管理運営に活かしていきたいと考えます。

自主事業計画書（ 4年度）

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
シベリヤ・シリーズ里帰り展	山口県と長門市の覚書に基づき、シベリヤ・シリーズを山口県立美術館より借用して展示する。	1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
市内文化施設連携企画展	長門市内のくじら資料館、村田清風記念館、金子みすゞ記念館及びルネッサながとにおいて共通のテーマを設定して、企画展を開催する。	1回 7～8月

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
企画展	香月画伯の世界を広く全国に発信するため、作品の中からテーマを決めて企画展を開催する。 また、他の美術館が企画する香月画伯の作品展の拡大に努める。	2回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
出前講座	香月画伯の世界を通じて、児童・生徒に対し美術への関心を高めるため、学校等への出前講座を開催する。	2回